

〈学位授与方針(ディプロマポリシー)〉

【大学院】

<p>経済・ビジネス研究科</p>	<p>〈博士前期課程〉 経済学専攻では修士（経済学）、現代ビジネス専攻では修士（商学）または修士（経営学）が授与される。また、両専攻の「研究者養成コース」は博士後期課程進学者の一貫した教育指導を目的としている。「専修コース」は福岡・九州など地域社会や産業界で活躍できる実行力を持った人材育成を目的としている。</p> <p>〈博士後期課程〉 博士の学位は、専攻分野でそれぞれ研究者として自立した研究活動をおこなう能力を習得した者、またはその他の高度に専門的な業務に従事するために必要な高度の研究能力およびその基礎となる学識を有する者に授与される。学生は各領域のカリキュラムに基づく指導を受け、その成果（博士学位）を求められる。</p>
<p>工学研究科</p>	<p>〈博士前期課程〉 各研究分野における基本的な学識はもとより、隣接および関連分野における学識を有し、産業技術デザイン領域において将来にわたって社会的な貢献ができる能力を身につけ、本課程修了に必要な30単位以上を取得し、かつ修士学位論文を作成し審査に合格した者に修士（工学）の学位を授与する。</p> <p>〈博士後期課程〉 工学の専門分野における高度な研究開発能力もしくは大学（大学院を含む）の教育課程において専門教育を担う能力を身につけ、本課程修了に必要な10単位以上を取得し、かつ博士学位論文を作成し審査および試験に合格した者に博士（工学）の学位を授与する。</p>
<p>芸術研究科</p>	<p>〈博士前期課程〉 博士前期課程では2年以上在学して、必修科目12単位、選択科目18単位以上の合計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、修士論文又は特定の課題（作品等）の審査および最終試験の合格をもって修士（芸術）の学位を授与する。</p> <p>〈博士後期課程〉 博士後期課程では3年以上在学して、所定の単位を修得し必要な研究指導を受け、学位論文（研究指導教員の指導により作品を加えることができる）の審査および最終試験の合格をもって博士の学位を授与する。</p>
<p>国際文化研究科</p>	<p>〈博士前期課程〉 専攻の学問を通して、現代社会に貢献できる人材の養成を目標としている。英語・国語・社会等の中学・高校教員の専修免許状を取得することができ、臨床心理士資格認定試験に合格した者は、臨床心理士になることができる。修士の学位については、論文審査等の最終試験に合格した者に授与する。研究の独創性、研究の位置づけの明確さ、論旨の明確さ等が審査される。</p> <p>〈博士後期課程〉 国際文化、臨床心理、教育の各分野について、高度な知識と研究能力を備えた専門的職業人の養成を目標としている。広い視野と豊かな学識を持ち、グローバル社会で通用する人材の育成を目指している。将来は研究者や教員や臨床心理士等として、積極的に社会に貢献できる人物を育成することを重要な目標としている。博士の学位については、申請論文、口頭試問、公聴会等の審査に合格した者に授与する。</p>
<p>情報科学研究科</p>	<p>〈博士前期課程〉 学位（修士）は、情報科学・技術を基礎から体系的に履修した、広い視野に立った高度な専門職業人および研究開発者として活動できる基礎力・応用力を修得した者に授与する。修了認定基準は、原則として2年以上在学し、所要科目を30単位以上修得し、学位（修士）論文の審査および最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、情報科学研究科において特に優れた研究業績を上げたと認められた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>〈博士後期課程〉 学位（博士）は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を有する者に授与する。修了認定基準は、原則として3年以上在学し、所要科目を履修し、学位（博士）論文の審査および最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、情報科学研究科において特に優れた研究業績を上げたと認められた者については、1年（ただし、博士前期課程を2年未満で修了した者は2年）以上在学すれば足りるものとする。</p>